

# 患者－看護師関係におけるルール意識 －臨床看護師と看護学生の比較－

三島三代子・曾田 陽子

## 概 要

本研究の目的は、臨床看護師と看護学生の患者－看護師関係におけるルール意識を比較することにある。質問紙調査により、臨床看護師71名、看護学生106名が「そうすべきだ」「そうすべきでない」と考えるルールを評定した。その結果、両者が選んだルールは類似していたが、一部に有意差がみられた。看護師側のルールとして、臨床看護師は「親密さ」「自己開示」「金品の交換」を規制するルールを看護学生よりも強く支持したが、看護学生は「情緒的関与」を促進するルールを強く支持した。また患者側のルールとして、臨床看護師は「親密さ」「金品の交換」を規制するルールを強く支持したが、看護学生は「自己開示」を促進するルールを強く支持した。

キーワード：患者－看護師関係、ルール意識、看護学生、臨床看護師、質問紙調査

## I. はじめに

種々の人間関係には暗黙のルールが存在する。明確に成文化されてはいないが、ある集団の成員が従うべきだと信じている多くの非公式な行動様式を指す。ルールは試行錯誤の結果、その集団の産物として徐々に定着してきたものであり、ほとんどの人間の行動、特に人間関係はそのルールに支配されている (Argyle et al, 1985)。従って、ルールを捉え分析することは、その集団の人間関係を理解するカギともなる。

Argyleらは様々な人間関係におけるルールを調査し、すべての人間関係に共通する普遍的なルールやその関係独自に重視されるルールが存在することを見いだした (Argyle et al, 1985)。これらの研究は、その関係が志向する様相と、その関係を円滑に維持・発展させるためのスキルを明らかにした点で有用である。

人間関係が壊れる理由として、前述の、その関係が志向する様相や関係維持のための社会的スキルの不足が挙げられる。近年、若者の対人関係のとり方が問題視される機会が多く (辻, 1996)、臨床においても実習指導や新人教育に

とまどう声をよく耳にするが、はたしてどう違うのであろうか。

そこで筆者らは臨床看護師と看護学生の「患者－看護師関係」におけるルール意識の違いを明らかにし、教育上の示唆を得たいと考えた。

## II. 目 的

臨床看護師と看護学生の「患者－看護師関係」におけるルール意識の違いを明らかにする。

## III. 用語の定義

本研究におけるルールとは「その集団の大部分の人が、『すべきだ』とか『すべきでない』と考える、あるいはある状況下で行うであろうと考える行動様式である」と定義する。

## IV. 方 法

### 1. 質問票

Argyleらは、ほとんどの人間関係にあてはまるものとされる33項目の共通ルールと、その関係に特徴的に存在すると考えられる特殊ルール

表1 33項目の共通ルール

1. 家族の祝い事には相手を招待して、一緒に食事をする
2. どんな小さなことでも、借りや好意、賛辞にはお返しをする
3. 相手に冗談を言ったり、からかったりする
4. 相手と一緒にいる時には、きちんとしてきれいな服装をする
5. 相手には、自分の最もよい面を見せるように努力する
6. 遠慮しないで、欲しただけ相手の時間をとる
7. 自分の個人的な金銭上の問題を、相手と話し合う
8. 相手にはいつでも暖かい心づかいを示す
9. 相手に、自分の個人的なスケジュールを知らせる
10. 自分の成功の喜びは相手と分かち合う
11. 相手のプライバシーを尊重する
12. 相手の目を見て話す
13. 相手にとって精神的な支えとなる
14. 相手を姓でなく名前で呼ぶ
15. 相手に自分の気持ちや個人的な問題をうち明ける
16. 食事などで一緒に外出した時には、相手の支払いもすると申し出る
17. 相手にバースデーカードやプレゼントを贈る
18. 事前に知らせずに相手を訪問する
19. 相手と一緒にいる時、下品な言葉を使う
20. 相手に、宗教や政治について話す
21. 相手に、セックスや死の問題について話す
22. 相手の前で自分の怒りをあらわす
23. 相手の前で自分の苦しみや不安をあらわす
24. 相手のさしずに従う
25. 人前で相手への親愛の情を示す
26. 会った時はおじぎをする
27. 相手の体にわざと触れる
28. 相手に物質的援助を求める
29. 相手に個人的なアドバイスを求める
30. 人前で相手を批判する
31. 相手のいないところでは、その人の弁護をする
32. 他人の秘密を、相手と話し合う
33. 相手と性的な関係を持つ

表2 患者—看護師関係の特殊ルール

- <患者側>
1. 看護師に感謝の気持ちを表す
  2. 看護師のさしずくに注意深く従う
  3. はっきりしないことがあれば、看護師に尋ねる
  4. 看護師に対してはいつでも正直である
  5. 看護師を信頼する
  6. 関係のある全ての情報を看護師に与える
  7. して欲しいことは何でも看護師に言う
  8. いつでも好きなときに看護師を呼ぶ
- <看護師側>
1. 患者の話に注意深く聞く
  2. 患者には常にはっきりと説明をする
  3. 患者と個人的な関わりを持つ
  4. 患者に対して率直である
  5. 患者に対して正直である
  6. 患者の要望を尊重する
  7. 看護することで患者に見返りを求める
  8. いつも笑顔で患者に接する
  9. 患者のペースに合わせる
  10. 患者に対していつも沈着冷静である
  11. 病室に入る時は必ずノック、あるいは声をかける
  12. 患者が呼ばばいつでもすぐに対応する

患者側のルール

	そうすべきだ					そうすべきでない			
	強く思う	思う	どちらともいえない	思う	強く思う				
1. 看護師を姓でなく名前で呼ぶ	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2. 看護師に自分の気持ちや個人的な問題をうち明ける	1	2	3	4	5	6	7	8	9
3. 食事などで一緒に外出した時には、看護師の支払いもすると申し出る	1	2	3	4	5	6	7	8	9
4. 看護師にバースデーカードやプレゼントを贈る	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5. 事前に知らせずに看護師を訪問する	1	2	3	4	5	6	7	8	9

(以下省略)

図1 質問票

から構成された質問票を開発した (Argyle *et al*, 1986)。筆者らはArgyleらの33項目を本人の承諾を得て邦訳して用いた (曾田他, 2001)。特殊ルールについては彼らが医師—患者関係で用いたものやHammerschmidtらのルール (Hammerschmidt *et al*, 1993)を参考にして作成した。特殊ルールは患者側に8項目、看護師側に12項目を設定した (表1, 2)。研究対象者は自分が患者、看護師それぞれの立場に立ったときを想定して、各項目について「そうすべきだ」と思うか「そうすべきでない」と思うかを判断し、さらにどれほど強くそう思うかを記入する。ルール項目の順序は質問票毎にランダムに並べてある。

得点化にあたっては尺度を9段階とし、それぞれの項目について「どちらともいえない」に5点を与え、「そうすべきだと思う」に4点以下、「そうすべきでないと思う」に6点以上を与えた。つまり「そうすべきだ」とより強く考えるほど得点を低く (1点)、「そうすべきでない」とより強く考えるほど得点を高く (9点) 与えた (図1)。

## 2. 対 象

病院に勤務している看護師 (以下臨床看護師とする) 及び3年課程の看護学生を対象とした。看護学生の選択においては、臨地実習を経験しており、医療現場のイメージを持ちやすいと考えられることから、3年次生に限定した。

## 3. 倫理的配慮

対象施設の看護部長に研究の主旨を説明し、協力の了解を得た。次いで臨床看護師に対して、調査の目的、無記名であること、研究参加への自発性の保証、個人や施設を特定しない形で結果を公表する旨を書面により説明した。看護学生には同様の内容を書面と口頭で説明し、いずれも回答をもって同意とした。

質問票については、邦訳して使用することについて、Argyle本人から書面により承諾を得た (2000年)。

## 4. 調査期間

・ 2000年4月～11月

## 5. 分析方法

患者・看護師双方のルールに対する評定の平均値と標準偏差を算出した。次に、平均値が3.0以下および7.0以上のルールを「支持されたルール」とし、ルール項目の類似性に基づき分類した。さらに等分散の検定を経て臨床看護師—看護学生間で $t$ 検定を行った。

## V. 結 果

### 1. 対象数

臨床看護師71名、看護学生106名の回答を分析対象とした。

### 2. 対象の属性

臨床看護師は全員女性で、平均年齢は32.7歳 (SD=9.1) であった。職位は非管理職52%, 中間管理職37%, 管理職1%, 不明10%であった。

看護学生は全員女性で、平均年齢は20.6歳 (SD=0.9) であった。

### 3. 支持されたルール

#### 1) 看護師側のルール

看護師側のルールとして、臨床看護師は45項目中26項目を支持し、看護学生は45項目中24項目のルールを支持した (表3)。ルール項目の類似性によって「支持されたルール」を分類したところ、その内容は「親密さの規制」「自己開示の規制」「金品交換の規制」「患者の尊厳の尊重」「感情表出の規制」「情緒的関与の促進」の6種類に分類できた。

支持されたルールのうち、臨床看護師のみに支持されたものが4項目、看護学生のみに支持されたものが2項目みられたが、「そうすべきだ」「そうすべきでない」というルールの方向性は同じ方向を示していた。

#### 2) 患者側のルール

患者側のルールとして、臨床看護師は41項目中14項目、看護学生は41項目中12項目のルールを支持した (表4)。同様にルール項目の類似性によって分類したところ「親密さの規制」「金品交換の規制」「看護師の尊厳の尊重」「自己開示の促進」の4種類に分類できた。

そのうち臨床看護師のみに支持されたものが

表3 看護師側のルールとして支持されたもの

支持されたルール	臨床看護師 (n=71)		看護学生 (n=106)		t 値	有意差
	M	SD	M	SD		
<b>&lt;親密さの規制&gt;</b>						
・他人の秘密を、患者と話し合うべきでない	8.63	0.99	8.33	1.51	1.616	
・家族の祝い事には患者を招待して、一緒に食事をするべきでない	8.08	1.46	7.11	1.84	3.903	***
・患者に、自分の個人的なスケジュールを知らせるべきでない	7.85	1.61	7.08	1.85	2.897	**
・患者と性的な関係を持つべきでない	8.21	1.45	7.60	1.86	2.436	*
<b>&lt;自己開示の規制&gt;</b>						
・自分の個人的な金銭上の問題を、患者と話し合うべきでない	8.42	1.14	7.80	1.62	2.991	**
・患者に自分の気持ちや個人的な問題をうち明けるべきでない	7.51	1.66	6.28	1.67	4.803	***
・患者に個人的なアドバイスを求めるべきでない	7.14	1.76	6.16	1.90	3.450	**
<b>&lt;金品交換の規制&gt;</b>						
・看護することで患者に見返りを求めるべきでない	8.10	1.31	7.76	1.92	1.379	
・患者に物質的援助を求めるべきでない	8.47	1.11	8.11	1.52	1.803	
・食事などで一緒に外出した時には、患者の支払いもすると申し出るべきでない	7.50	1.85	6.82	1.87	2.373	*
<b>&lt;尊厳の尊重&gt;</b>						
<b>誠実さ</b>						
・患者の目を見て話すべきだ	1.85	1.47	1.78	1.54	0.276	
・患者には常にはっきりと説明をするべきだ	2.59	1.65	2.26	1.56	1.308	
・患者の話を注意深く聞くべきだ	1.49	1.17	1.53	1.07	-0.207	
・人前で患者を批判するべきでない	8.46	1.22	8.63	0.98	-0.967	
<b>礼儀</b>						
・患者と一緒にいる時、下品な言葉を使うべきでない	8.21	1.25	8.12	1.29	0.454	
・会った時はおじぎをするべきだ	2.83	1.99	2.54	1.60	1.070	
<b>プライバシー</b>						
・患者のプライバシーを尊重するべきだ	1.38	1.42	1.58	1.77	-0.816	
・病室に入る時は必ずノック、あるいは声をかけるべきだ	1.56	0.94	1.39	1.02	1.166	
・遠慮しないで、欲しいだけ患者の時間をとるべきでない	7.32	1.62	7.02	1.75	1.170	
・事前に知らせずに患者を訪問するべきでない	7.99	1.46	7.19	1.75	3.284	**
<b>&lt;感情表出の規制&gt;</b>						
・患者の前で自分の怒りをあらわすべきでない	7.20	1.63	7.05	1.82	0.561	
・患者の前で自分の苦しみや不安をあらわすべきでない	7.28	1.75	6.93	1.76	1.292	
<b>&lt;情緒的関与の促進&gt;</b>						
・患者にはいつでも暖かい心づかいを示すべきだ	2.27	1.37	1.94	1.61	1.391	
・患者が呼べばいつでもすぐに応じるべきだ	2.79	1.50	2.72	1.79	0.279	
・患者の要望を尊重するべきだ	3.03	1.66	2.87	1.60	0.643	
・患者のペースに合わせるべきだ	3.19	1.69	2.69	1.70	1.901	
・患者にとって精神的な支えとなるべきだ	2.34	1.26	1.89	1.42	2.175	*
・いつも笑顔で患者に接するべきだ	2.66	2.10	2.05	1.55	2.115	*

は、支持されなかったことを示す

\* p < .05

\*\* p < .01

\*\*\* p < .001

表4 患者側のルールとして支持されたもの

支持されたルール	臨床看護師 (n=71)		看護学生 (n=106)		t 値	有意差
	M	SD	M	SD		
<b>&lt;親密さの規制&gt;</b>						
・他人の秘密を、看護師と話し合うべきでない	7.79	1.50	7.31	1.78	1.903	
・看護師と性的な関係を持つべきでない	7.74	1.73	7.14	1.94	2.147	*
・家族の祝い事には看護師を招待して、一緒に食事をするべきでない	7.37	1.75	6.40	1.90	3.416	**
<b>&lt;金品交換の規制&gt;</b>						
・食事などで一緒に外出した時には、看護師の支払いもすると申し出るべきでない	7.79	1.93	7.53	1.98	0.854	
・看護師に物質的援助を求めるべきでない	7.64	1.70	7.02	2.06	2.166	*
・看護師にパスデカードやプレゼントを贈るべきでない	7.53	1.75	6.50	1.77	3.799	***
・どんな小さなことでも、借りや好意、賛辞にはお返しをするべきでない	7.19	1.74	6.46	1.90	2.553	*
<b>&lt;尊厳の尊重&gt;</b>						
<b>プライバシー</b>						
・看護師のプライバシーを尊重するべきだ	2.73	1.83	2.64	2.05	0.288	
・事前に知らせずに看護師を訪問するべきでない	7.53	1.79	7.11	1.71	1.571	
<b>礼儀</b>						
・看護師の体にわざと触れるべきでない	7.94	1.38	7.85	1.53	0.419	
・看護師と一緒にいる時、下品な言葉を使うべきでない	7.19	1.70	6.83	1.80	1.316	
<b>&lt;自己開示の促進&gt;</b>						
・看護師には、自分の最もよい面を見せるように努力するべきでない	7.16	1.47	7.10	1.55	0.273	
・看護師の前で自分の苦しみや不安をあらわすべきだ	2.83	1.47	2.60	1.77	0.894	
・はっきりしないことがあれば、看護師に尋ねるべきだ	2.17	1.59	2.16	1.68	0.044	
・自分の成功の喜びは看護師と分かち合うべきだ	3.31	1.37	2.71	1.43	2.806	**
・看護師を信頼するべきだ	3.44	1.60	2.63	1.56	3.341	**

は、支持されなかったことを示す

\* p < .05

\*\* p < .01

\*\*\* p < .001

4項目、看護学生のみ支持されたものが2項目であったが、看護師側のルールと同じく、「そうすべきだ」「そうすべきでない」というルールの方向性はいずれも同方向であった。

#### 4. 有意差があったルール

##### 1) 看護師側のルール

看護師側のルールで支持されたもののうち、臨床看護師—看護学生間に有意差（5%水準以上）があったものは10項目であった（表3）。

「親密さの規制」においては、4項目中3項目に有意差があり、臨床看護師・看護学生共に“家族の祝い事には患者を招待して、一緒に食事をするべきでない”“患者に自分の個人的なスケジュールを知らせるべきでない”“患者と性的な関係を持つべきでない”と考えている。しかし、それらを規制する意識は臨床看護師の方が看護学生より強かった。

「自己開示の規制」においては3項目全てに有意差がみられた。臨床看護師は“自分の個人的な金銭上の問題を、患者と話し合うべきでない”“患者に自分の気持ちや個人的な問題をうち明けるべきでない”“患者に個人的なアドバイスを求めるべきでない”と強く考えているが、看護学生はそれほど強くは考えておらず、後者2項目についてはルールとしても支持していなかった。

「金品交換の規制」においては3項目中1項目に有意差があり、“食事などで一緒に外出したときには、患者の支払いもすると申し出るべきでない”と臨床看護師は考えているが、看護学生はその意識は弱く、ルールとしても支持しなかった。

「患者の尊厳の尊重」においては10項目中1項目にのみ有意差があった。臨床看護師・看護学生共に“事前に知らせずに患者を訪問すべきでない”と考えているが、看護学生は、臨床看護師よりもその意識は弱かった。

「情緒的関与の促進」においては6項目中2項目に有意差がみられた。臨床看護師・看護学生共に“患者にとって精神的な支えとなるべきだ”“いつも笑顔で患者に接するべきだ”と考えているが、前述の傾向とは異なり、看護学生の方が臨床看護師より強く「すべきだ」と考えて

いた。

「感情表出の規制」においては、両者に有意差はみられなかった。

##### 2) 患者側のルール

患者側のルールとして支持されたもののうち、臨床看護師と看護学生に有意差があったのは7項目であった（表4）。

「親密さの規制」においては3項目中2項目に有意差があった。臨床看護師・看護学生共に“看護師と性的な関係をもつべきでない”“家族の祝い事には看護師を招待して、一緒に食事をするべきでない”と考えているが、看護学生は臨床看護師よりその意識は弱く、さらに後者の項目はルールとしても支持しなかった。

「金品交換の規制」においては4項目中3項目に有意差があった。臨床看護師は“看護師に物質的援助を求めるべきでない”“看護師にバースデーカードやプレゼントを贈るべきでない”“どんな小さなことでも、借りや好意、賛辞にはお返しをするべきではない”と強く考えているが、看護学生はそれほど強く考えておらず、後者の2項目はルールとしても支持しなかった。

「自己開示の促進」においては5項目中2項目に有意差があった。前述と異なり、看護学生の方が強く“自分の成功の喜びは看護師と分かち合うべきだ”“看護師を信頼するべきだ”と考えており、臨床看護師はこの2項目共ルールとして支持しなかった。

「看護師の尊厳の尊重」においては両者に有意差は無かった。

## VI. 考 察

臨床看護師と看護学生が支持したルールの中に、例えば一方が「すべきだ」と考えるが他方は「すべきでない」と考えるというような、方向性が逆転するものは認められなかった。しかし、看護師側のルールの10項目、患者側のルールの7項目には有意差がみられた。

ルールの規制様式をみると臨床看護師は「すべきでない」という禁止型のルール（proscriptive rules）を看護学生よりも、看護学生は「すべきだ」という指令型のルール（prescriptive rules）を臨床看護師よりも強く支持してい

る。このことから、臨床看護師は看護学生よりも、行動制限の意識が強いことが推測される。

内容をみると臨床看護師は、看護師側には“患者に自分の気持ちや個人的な問題をうち明けるべきでない”“患者に個人的なアドバイスを求めるべきでない”など、そして患者側には“どんな小さなことでも借りや好意、賛辞にはお返しをするべきでない”“看護師にバースデーカードやプレゼントを贈るべきでない”などの、いわゆる親密になりすぎないためのルールを強く支持している。それに対し、看護学生は看護師側には“患者にとって精神的な支えとなるべきだ”“いつも笑顔で患者に接するべきだ”，患者側には“自分の成功の喜びは看護師と分かち合うべきだ”“看護師を信頼するべきだ”といった、関係の親密さを促進するルールを強く支持していた。

専門職の人間関係は、仕事の遂行という課題達成に関連した関係である (Argyle *et al.*, 1985) が、臨床看護師は、尊厳の尊重や情緒的関与といった、信頼関係や親密さの促進につながるルールを支持する一方で、看護学生よりも、親密になりすぎないルールを強く支持している。これらは個人的な関係をもつことによって生じる葛藤を回避するためのルールであるとも考えられる。このことから、臨床看護師は看護という課題達成を円滑にするために、親密さを統制し、患者との間に適切な距離を保つことを重視しているのではないかと推測される。

一方、看護学生には臨床看護師と比較して、情緒的により親密であろうとする傾向がみられた。これには発達段階の影響が考えられる。ルールには年齢差があるといわれており、一般に18～25歳の低年齢群は親密さに関するルールを重視する傾向があり、30～60歳の高年齢群は感情をあらわにしたり、個人的問題をうち明けたらすべきでないと考えている (Argyle *et al.*, 1985)。筆者らの先行研究でも女子学生が人間関係において親疎関係を重視する傾向がみられている (三島, 2001)。近年の若者像として、対人関係には積極的だが「強く」「濃く」関わることには消極的という見解が論じられている (辻, 1996) が、患者－看護師関係においては、より親密な関係を志向しているようである。

以上のように、臨床看護師と看護学生の「患者－看護師関係」におけるルール意識には相反するほどの違いはなく、意識の持ち方に強弱の差があると考えられた。そして、臨床看護師がこの関係において親密さを統制し、一定の距離を置こうとするのに対し、看護学生にはその意識が弱く、より親密であろうとする傾向が強かった。それは課題達成のための好ましい「患者－看護師関係」に抱く距離感の違いであると考えられ、発達段階や経験の違いによる影響が大きいと推測される。看護の基礎教育では、患者との信頼関係の形成に重きを置いて教育されてきている。その中で看護学生が、患者－看護師の信頼関係を、関係の密接性と誤って捉えてしまっていることも危惧される。「患者－看護師関係」がその関係に身を置かなければ理解しにくい専門職の関係であることを考えると、課題達成のための適切な距離を考慮した教育も今後必要であると考えられる。

## Ⅶ. 結 論

1. 臨床看護師と看護学生の「患者－看護師関係」におけるルール意識は類似したものであり、相反するほどの違いは無かったが、意識の持ち方には強弱の差がみられた。
2. 臨床看護師には課題達成を円滑に行うために、親密さを統制し、距離を置こうとする傾向がみられたが、看護学生にはより親密な関係を求める傾向がみられた。

## Ⅷ. おわりに

本研究では臨床看護師と看護学生の「患者－看護師関係」におけるルール意識を調査し、両者の違いを検討した。今後「患者－看護師関係」における望ましい距離を追求するとともに課題達成という専門職としての関係の持ち方を教育の中で意識づけていく必要がある。

なお、今後は対象数を増やし、さらに分析を試みていきたい。

## 文 献

- Argyle, M., Henderson, M.(1985): *The Anatomy of Relationships*, Penguin Books, England.／吉森護 (1992): 人間関係のルールとスキル, 4, 49-60, 北大路書房, 京都.
- Argyle, M., Henderson, M., Bond, M., Iizuka, Y. & Contarello, A.(1986): Crosscultural variations in relationship rules, *International Journal of Psychology*, 21, 287-315.
- Hammerschmidt, R., Meador, C. K. (1993): *A Little Book of Nurses' Rules*, Henley & Belfus, Philadelphia.／井部俊子 (1997): ナースのルール347, 南山堂, 東京.
- 三島三代子, 曾田陽子, 飯塚雄一 (2001): 人間関係におけるルール意識 (2)－女子学生を対象とした検討－, 島根県立看護短期大学紀要, 6, 55-60.
- 曾田陽子, 三島三代子, 飯塚雄一 (2001): 人間関係におけるルール意識 (1), 島根県立看護短期大学紀要, 6, 47-54.
- 辻 大介 (1996): 若者におけるコミュニケーション様式変化－若者語のポストモダニティー, 東京大学社会情報研究所紀要, 51, 42-61.

## Comparison of Nurse and Nursing Students' Views Regarding Rules for Patient-Nurse Relationships

Miyoko MISHIMA and Yoko SOTA

### Abstract

The purpose of this study was to examine the difference in the rules of patient-nurse relationships between clinical nurses and senior nursing students. Seventy-one nurses and 106 students were asked to rate on a 9-point scale how important they believed each rule was in the patient-nurse relationship, firstly, as applied to the patient, and secondly, as applied to the nurse. Both participants highly endorsed a similar number of rules. Using a t-test, we found significance ( $p < .001$ ) in endorsed rules between nurses and students. For rules for nurses, nurses more strongly endorsed rules concerning regulating intimacy, regulating self-disclosure, and regulating exchange of rewards. However, students more strongly endorsed rules concerning promoting emotional commitment. Regarding rules for patients, nurses more strongly endorsed rules concerning regulating intimacy, and regulating exchange of rewards. Students more strongly endorsed rules concerning promoting patient self-disclosure.

**Key Words and Phrases:** rule of patient-nurse relationship, clinical nurse, nursing student, questionnaire